

兵庫県産のクビボソトビハムシ

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 2 9)

高 橋 寿 郎

1935年中條道夫博士は当時の日本産クビボソトビハムシ属 (*Liprus*) の分類学的論文を台湾産1新種をふくみ5種について発表になられた (*Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa*, Vol. 25, No146, p. 395-398)。その時点での日本産は4種と云うことになっている。それ以後暫くの間このクビボソトビハムシ属についての研究は出ていないようである。1959年大野正男教授は“日本産 *Liprus* 属について”なる論文を発表になり (*日本生物地理学会々報* Vol. 21, No4, pp.33-44, pl. 1) 日本産クビボソトビハムシ属4種3新亜種に就いて詳しく解説をされた。翌1960年には中條道夫・木元新作両博士は *Liprus hirtus* Baly をタイプとして新属 *Pseudoliprus* を設立された (*Niponius*, Vol. 1, Part. 4, p. 9)。その時には *Liprus nigritus* と *suturalis* は *L. hirtus* のシノニムと考えられるむね処理されている。しかしながら現在では日本産 *Pseudoliprus* は4種と云うことになっている (木元新作, 原色日本甲虫図鑑, IV, pl. 42, p.215, 1984., *昆虫と自然*, Vol. 23, No3, p.41, 1988)。

兵庫県からは従来からクビボソトビハムシ *Pseudoliprus hirtus* とクロクビボソトビハムシ subsp. *flaviceps* の1種1亜種が記録されていただけであるが、筆者の貧弱な標本を調べて見た所3種1亜種を産するよう思うのでそれ等を此処に記録しておきたい。

Pseudoliprus nigritus (Jacoby)

アラメクビボソトビハムシ

本種は M. Jacoby により Oyama (相模大山) を原産地として記載された種 (1885) であるが、その後あまり記録の知られていない種である。と云うのは *P. hirtus* のシノニムと考えられていたことがあるからと考えられる。木元博士の検索表によると後肢腿節が黒色。前胸背板は明瞭なさめ肌状印刻され強い点刻を密に装い、点刻の直径はその間室より幅広いという特徴で *P. hirtus* と区別出来るとなっている (1988)。同博士の原色図説もあるがこの種の方が *P. hirtus* より大きいように思われる。県下での記録は全くなかったが神戸市内で採集したものがこの種に該当すると考えられる。食草はヤマブドウ、ツタと知られている。

産地：神戸市六甲山 (2exs., 28-V-1987), 伊川谷町前開 (lex., 7-VI-1988)。

Pseudoliprus hirtus (Baly)

クビボソトビハムシ

Lewis の採集した長崎産の標本に基づいて古く1874年 Baly により記載された種である。

従来この属のものは総てこの種に取扱われていた時期があった様で、県下での記録もこの種の記録はやや古くからある。どちらかと云えば大野正男教授が記載された亜種の方が多くいる様に思われる。

食草はツタ、ノブドウ、ヤマブドウ、サンカクズルなどが知られている。

産地：氷上郡柏原 [山本, 1953, 1958]、相生市三湊山 [大野, 1967]。宍粟郡音水 (2exs., 11-1972, 7exs., 25-VI-1972, lex., 3-VI-1973)。養父郡氷の山 (1♀, 24-VII-1955, 1♀, 25-VII-1955, 2♂, 1♀, 27-VII-1957)。美方郡扇の山 [辻, 岸田, 1972]、浜坂町城山 [磯野, 1985]。

subsp. *flaviceps* (Ohno)

クロクビボソトビハムシ

産地：三原郡成相峠 [大野, 1969]。洲本市先山 [大野, 1969]。神戸市丹生山 (lex., 5-V-1956), 金剛童子山 (lex., 24-VI-1956)。多可郡烏羽 (lex., 5-VII-1975)。宍粟郡音水 (lex., 25-VI-1972, 2exs., 15-VII-1973)。

Pseudoliprus suturalis (Jacoby)

セスジクビボソトビハムシ

小楯板に全く剛毛を欠く。一般に褐色、暗褐色。上翅会合部は黒色、時に体背面は全体黒色。色彩と3種の中では一番小さい。

本種は M. Jacoby (1885) により Lewis が Fukushima (木曾福島) で得た1頭の♂標本により記載されたもので、その後の記録がほとんど知られていない種である。

県下からも今迄全く記録のなかった種である。あまり県の南側並びに平地にいないようである。食草はヤマブドウと言われている。

産地：朝来郡生野菖蒲沢 (1♂, 8-VII-1956)。宍粟郡音水 (lex., 11-VI-1972, lex., 25-VI-1972)。養父郡氷の山 (lex., 25-VII-1955)。

(MAY. 1989)